

## ■COOLL って何？

COOLL (Collaborative Open Language Learning) は、大学生が、専門分野の知識や技術とともに英語コミュニケーション能力を身につけるために開発された e-learning システムです。津田塾大学「専門課程における英語カリキュラム協調開発」プロジェクトにより開発されています。

## ■何ができるの？

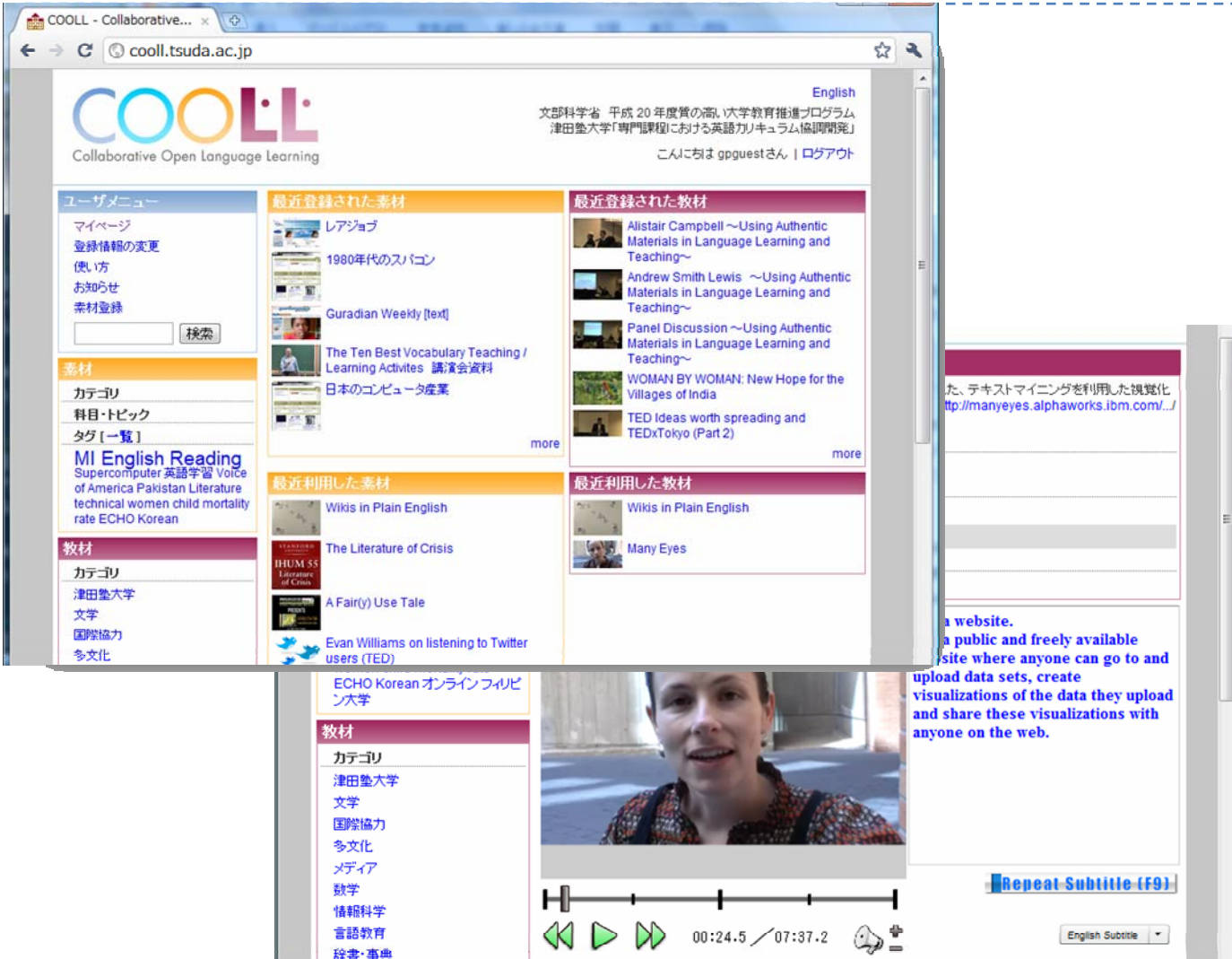
COOLL では、英語圏の人が利用しているコンテンツ（素材）と、それらに英語/日本語の字幕を追加したコンテンツや、素材についての問題などの教材を使って、自分の好きなトピックについて学ぶことができます。素材として、津田塾大学で実施された英語による講演、海外の大学での講義、TED で行われた著名人の講演など、様々なトピックについてのコンテンツ多く登録されています。COOLL を使用している講義は数科目しかありませんが、講義を聴講していない学生も自由に利用できます。本物の英語に触れたい人にお勧めです。

## ■どこにアクセスすればいい？

COOLL は <http://cooll.tsuda.ac.jp/> にあります。学外からもアクセスできます。

## ■わからないのですが・・・

COOLLWEB (<http://coollweb.tsuda.ac.jp/>) 上で COOLL やプロジェクトに関する情報・お知らせ等を配信しています。メールでのコンタクトには次のアドレスをご利用下さい；✉[cooll@tsuda.ac.jp](mailto:cooll@tsuda.ac.jp)



The screenshot displays the COOLL website interface. At the top, the COOLL logo and name are visible, along with the text 'Collaborative Open Language Learning'. The page is in English. A navigation menu on the left includes 'ユーザーメニュー' (User Menu) with options like 'マイページ', '登録情報の変更', '使い方', 'お知らせ', and '素材登録'. Below this is a search bar. The main content area is divided into several sections: '最近登録された素材' (Recently Registered Materials) listing items like 'レアジョブ', '1980年代のスバコン', and 'Guradian Weekly [text]'; '最近登録された教材' (Recently Registered Textbooks) listing items like 'Alistair Campbell ~Using Authentic Materials in Language Learning and Teaching~'; and '最近利用した素材' (Recently Used Materials) listing 'Wikis in Plain English'. A video player is shown at the bottom, displaying a woman speaking, with a subtitle 'Repeat Subtitle (F9)'. The video player includes a progress bar and playback controls.

東京大学大学院教育学研究科教授 影浦峽先生 講演

# ネットワークコミュニケーション時代の 言語流通環境と翻訳



<http://trans-aid.jp>

「みんなの翻訳」

影浦先生が中心となって運営されている、オンラインの翻訳支援プロジェクトです。

日時： 2011年11月24日(木)14:40-16:10

会場： 津田塾大学 小平キャンパス 5号館 (AVセンター) 5102教室

人の流動性が高まっていること、経済活動やコミュニケーションの地理的制約が減ったことなどから、私たちは日常的に、「多言語共存社会」「多言語併用」「グローバル化」といった言葉を耳にするようになりました。日本に暮らしていても、日常生活の中で、様々な言葉を耳にしたり目にしたりする機会は増えています。これから、私たちが使う言葉の姿はどのようなものになっていくのでしょうか？ また、世界で使われる言葉の配置は、どうなっていくのでしょうか？

この講演では、そうした問題を考える手段として有効と考えられる、いくつかの視点を提供します。

- (1) 少しだけ歴史を振り返って、日本に住む多くの人が当たり前に使っている日本語という言葉の位置づけを振り返り、
- (2) 今、展開されているコミュニケーションのかたちがどのように言葉の姿に影響を与えうるかを検討し、
- (3) その中で翻訳という活動はどんな役割を果たすのかを考えます。

そのうえで、私たちが進めているオンラインでの翻訳支援プロジェクトの狙いを明らかにしていきます。

影浦峽先生の略歴： 札幌生まれ。1986年東京大学教育学部卒・1988年東京大学大学院教育学研究科教育学修士。1993年マンチェスター大学学術博士（計算言語学）。1988年より文部省学術情報センター（現国立情報学研究所）、助手、助教授を経て准教授。2005年より東京大学大学院教育学研究科准教授、2009年より同教授。中国政法大学法律翻訳研究センター客員教授。

専門は言語とメディア、翻訳。 *Terminology* 誌、研究書シリーズ *Terminology and Lexicography: Theory and Practice* 編集長、*International Journal of Law, Language and Discourse* 誌顧問。

★この講演は、「多文化社会と言語教育」の授業時間に行いますが、一般の方も聴講可能です。どうぞ、お気軽にご参加ください。事前申し込み不要です。当日、津田塾大学正門守衛所にて、住所氏名をご記入ください。

<問い合わせ先>

津田塾大学 教育 GP「専門課程における英語カリキュラム協調開発」事務局

〒187-8577 東京都小平市津田町 2-1-1

E-mail: [cool@tsuda.ac.jp](mailto:cool@tsuda.ac.jp)

<http://coolweb.tsuda.ac.jp>